
魔法少女リリカルなのは～虚無の一般人MODOKI

ミカツチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 虚無の一般人MODOKI

【Nコード】

N4218L

【作者名】

ミカツチ

【あらすじ】

リリなの？何それおいしいの？ 一般人に紛れるチート主人公（他者視点）フラグ何それ食べれる？

主人公設定（前書き）

前書き及び後書きは10話に一回くらいしか書きません
誤字脱字が連発しますがよろしくお願ひします

5月17日主人公設定更新

主人公設定

主人公

名前

草薙蒼牙

男

年齢

18前後

見た目

美形で端正な顔立ちだが目付きが悪い

髪と目の色は黒色で

服装

こだわりなどは特に無く主に

黒いジーンズに黒い長袖に黒いジャケットなど

動きやすい格好を好む

性格

基本的に冷静沈着

常に冷静にいたることが多く喋るより頭で考える

手を出さなければ温厚

人間的に壊れているフシがあり人を殺してもどうとも思わないがど
の世界でも殺したらめんどうさい事になるので殺す事はしない

知性

頭は天才を越えているが世界の知識を吸収し続けているために脳の

記憶領域を超えた結果を知識障害記憶障害が発生している

強さ

数々世界で契約として神殺しをした事があるなど最悪な強さを誇る能力

ペインロック

痛覚などを感じなくなり痛みを感じなくなる

マインドブロック

催眠術や精神操作を無効果する

武器の具現化

色んな世界をさまよった結果見たもの得たものを武器としている

主な武器

キープレード

めぐりあう二人がお気に入り非殺傷武器として使用している

めぐりあう二人を分断し

過ぎ去りし思いでと約束のお守りを二刀流して使う事もあるが非殺

傷用武器

銃

ケルベロス

ライトヘッドとレフトヘッドをメインとして両手に一つずつ持ち使う

威力が低く非殺傷武器としてコントロールしやすい為に使う弾は具

現化故に無限

対一人用殺傷武器

????????

相手が一人で殺す必要があり必ず殺す時に使う武器形も能力も不明

対多人数用殺戮武器

?????????形も能力も不明だが大量にいるときに使いやすいらしい

対上級者用殺傷武器

?????????

蒼牙が強敵と認めた時のみ使う武器

今までに10回くらいしか使った事がない形も能力形も不明

対超上級用殺傷武器

?????????

今までに一回も使用した事がない武器

能力形も不明

蒼牙よりも強く限りなく追い詰められヤバい状況でも無ければ使えない武器

以降更新中

プロローグ（前書き）

誤字脱字が酷いですがよろしく願います

プロローグ

?????

始まりは何時もここから始まる

そう ここからだっただ...

?「またか...何時もやつか...」

とある青年がどうでも良さそうに呟く ここは夢とも現実とも取れない世界...

青年の夢かそれとも現実かも...分からない存在しているのかも分からない世界で青年は夢を見続けている

?????「俺は何時まで同じ事を繰り返すんだろっ...」始まりが何時かは分からない...

何時終わるのかも分からない...

世界に裏切られ世界に殺され続ける???「.....何百回目だ此処に戻るのには」

青年は呟く

その表情は何もない虚無感が漂い恐ろしいほど感情がない

????「次はどの世界に転移されるんだ...」

青年にとっては何百いや何千何万回目かも、もはや覚えていない転移を繰り返してそして契約が履行されるまで生きそして終われば死

なずに此処に戻る

それを繰り返し続ける

履行されるまでは死ぬ事は不可能...例え原初や細胞まで分解されても自己再生する

お陰で死も生もさして興味を持たなくなった

人も一人目を殺した時の事は覚えている、しかし二人目から覚えていない...

キリがないと思いき思考を止める

????「そろそろか…」

突然青年が頭を押さえる表情は苦悶…何か様子がおかしい突然叫び始め

?????「アッアガアッアギアア!!!!!!」

青年はもがき苦しんでいる

青年にとっては慣れた苦しみだが痛いものは痛い肉体的な痛みなら例え指を切り落とされも青年にとっては慣れた痛みであり痛いと感じない

だがこの痛みは質が違う何と云うか…

痛いのだ色んな意味で

????「はあはあ、ンツなるほど次はこの世界か…」

この痛みの後にあるのは膨大なその世界に関するありとあらゆる知識…脳の限界領域も超える知識だからこそこの痛みがあるのか…

と考えるが結局原因は不明だ

????「アルハザード、ミッドチルダ、地球、次元層壁、未知の世界、夜の一族、魔法、魔法科学…か今までは違うな」

青年の頭の中には色んな知識が飛び回る、その中には死者蘇生やクローン技術や魔導書もあった…

確かに今まで世界にはそんなのはザラにあったが…今まで何かが違う何と云うか世界が違う…

パラレルワールドと言うべきか…微妙に次層が違うらしい、同時に様々な世界が点在してるらしい

青年の目の前扉が現れる

どうやら始まりらしい

????「行こうか…俺…草薙蒼牙よ」

出会いと始まり

扉を潜ると…蒼牙の目の前に車が突然現れる

蒼牙「なっ！」

蒼牙は驚くが瞬時に反応し恐ろしい速度瞬時に横に飛び回避する
キキーー！と音を出し右側により車は止まり銀髪の女性が降りてきて此方に向かってくる

一方蒼牙は冷静に周りを見渡す

どうやら自分は道路の真ん中に居たらしい

瞬時に思考を始める

蒼牙（個々は…大体は今までに比べると21世紀前後の地球に近いな…

どうやら道路の真ん中に居たらしい…

地球程度の文明だとすると戸籍や身元保証が必要…

偽造自体は楽だが…

契約履行条件は分からない…色々調べてみないと）

契約履行自体は大体は知識に係るものが多い…詳細までは分からない事が多いが大体は誰かを殺す事が多い

色々思考をするが所詮予想の域を出ない

思考時間は0、5秒くらいで思考を切る車を降りた銀髪のメイド服を着た女性が走ってよってくる

蒼牙が足音と気配に気づき軽く見る

表情は変化は無いがどうやら焦っているらしい…

確かに回避出来る状況では無かったな

衝撃は無かったとは言え運転中に突然目の前に現れその後は消えたのだから当然と言える

ブレーキを踏む時間も無かったのだろうか

近づいてくると声を描けてきた

????「…あの大丈夫ですかお怪我などはございませんか？」

女性は心配な表情をしつつ冷静な声色で聞いてくる

蒼牙「ああ…大丈夫だ…特に怪我もないっん？」

蒼牙は女性を見ると何かがおかしい事に気づく

女性は綺麗でスタイルもいいと言えるだが何と云うか…生きている感じがしない言うならばサイボーグや機械人形に近い

呼吸や肉体の動きや重心も明らかに人間のそれとは違う

???「あの…何か？」

女性は蒼牙の様子におかしい事に気付いたのか聞いてくる

蒼牙「…なあ、いきなりだが…あんた…人間か？」

言った瞬間女性の表情は凍りつくが直ぐに切り返す

???「…何故そう思うのですか？」

女性は車に何か視線を向け一瞬合図見たいな物を出したように見えたがすぐに蒼牙に視線が戻り無表情で聞いてくる

蒼牙「ああ…そつだな…」

蒼牙は軽く頭を掻きつつどうでも良さそうに答える

蒼牙「全てに置いて違和感があるんだよ、息の仕方、動きや関節、匂いとかな」

???「少々お待ちください…」

蒼牙「ああ、いいよ」

女性は答えを聞くとに車に走って戻ると車の窓が開くと誰かと話している

蒼牙は異常に耳がいいので声が聞こえてくる

???「…という事なのですが…」

どうやら説明をしていたらしい

「???」あの人がね…まさか初見でノエルに気づくなんて…」
「???」どうしますか?」

声から判断するに女性か…ふむ…どうやら俺は彼女達のテーブルに触れたらしい最悪対立しなきゃならないな

まあ別にどうでもいいが…

殺すのは楽だが目撃者もいる

いきなり逃げ回る生活はめんどくさい…

何年いや何百年にいるかも分からないのにメリットが無い

「???」偶然しては出来すぎてる出会いね…まるで何かのゲーム見たいに」

女性はマジックミラー越しに見てくる

表情は読み取れない

蒼牙は軽く気配を探るが人間だが何かが違う

「???」…はい」

どうやら疑っているらしい…だろうな

偶然とは言え

いきなり車の目の前に現れて

出会った拳句にテーブルをいきなり言い当ててくるのだから

「???」とりあえず…会って話を聞いて見ましようか?、ノエル彼を車に連れて来て頂戴」

ノエルと呼ばれた女性は頷き此方に近づいてくる

どうやら向こうの話は纏まったらしい

蒼牙(さてどうする…?)

- 1、逃げる
- 2、話に応じる
- 3、二人とも殺す)

とりあえず1か2が最有力

3は色々とめんどくさい事になりそうだ

2は向こうがマトモなら良いのだがな…

まともでは無くもし向こうが武力で応じるなら殺すしか無いが

しかし…言うまでもなくめんどくさい上に目撃者も多数いる

まあ目に見えない速度で斬りつけて殺せばいいのだが

蒼牙(とりあえず話を聞くか…)

手荒な手段に出たときに対応すればいいか)

???「あの…すみません話があるので車に乗って頂きたいのですが…?」

女性は頼みながらも逃がさないと言う顔をしている

蒼牙「分かった」

女性は蒼牙を車に案内する

車に着くと

女性「どうぞ」

女性は車のドアを開く

蒼牙「ああ、すまないな」

蒼牙は車に乗り込むと長い紫色の髪の女性が座っている

スタイルも良く顔立ちもよく綺麗と可愛い合わさった顔をしているが

表情は笑顔だが明らかに気配は警戒している

???「ノエルから話は聞いているわ怪我は無い?大丈夫?」

蒼牙「ああ…大丈夫だ、それで話とは何だ?」

蒼牙は車に乗り込むと女性の横に座る

「????」まあ大体は分かるでしょう?ノエルについてよ
ノエルと呼ばれた女性は車の運転席に乗り込む
蒼牙「ノエルとは誰だ?、それにアンタは誰だ?」

紫色の女性は苦笑いしつつ答える

「????」そうね…名前くらいは名乗るべきね

私は月村忍、運転席にいるのはノエルよ

こっちは名乗ったわあなたの名前は?」

蒼牙「その前に何処に連れていくつもりだ?」

蒼牙は運転席に戻り運転するような素振りを見せるノエルを見る

忍「ごめんなさい、私の家まで来て貰うわ、色々話を聞きたいの」

忍はこっちを見つつ蒼牙の返事を聞かずに忍はノエルに合図を送る

蒼牙「まあ…良いだろう俺は草薙蒼牙だ…」

蒼牙は気にする様子もなく椅子に座り歓迎?を受けることした

車は走り始める月村家に向かって

ぶろろーぐ(前書き)

書き直しました…

ぶるるーぐ

side【?】

あれ？確か俺は…死んだのか？

覚えてない…なんだっけ此処は何処だ？

意識はあるでも何故か暗いし…何も見えないし感じないでも意識はある…

幽霊？いや…違うこれは…何？…痛い痛いイタイイタイ
タイいたいい…た…い…あああああああああああああ
いたいたいたいたいたいああ…

頭が居たい頭が壊れるでも分からない…自分は存在していない？し
ている？どっち？分からない…

あれそうか…これが【死】なのかな？人は泣いて生まれてくるらし
いし…生まれ変わるのかな…まだ20年しか生きて居なかったけど
顔は普通で特にモてるわけでも無く…趣味も無かった…友人もほと
んどいない…覚えているのは…友人の家に遊びに行つて友人がしき
りに進めてくる最後に見たアニメの内容がぼんやり覚えてる

友人の家でアニメを見た帰りから何も覚えていない…

ん？何だこれ…知識がいろんな何かか頭に浮かんでくる血識…魔法

…魔術…力…人…クローン…転生…分からない何なんだ？

…ん？…光？…眩しいこれは！？

？【おはよう…そしておめでとう】

声に気づきふと気がつくとはもない真っ白い空間が眼前に広がって
いる…これは一体？

目の前にはだれもない…でも知覚出来るどうやら俺は【存在】し
てるらしい

？「うああああああああああああああああああa a a a!!! g a a
a a a!!!?!!1????」

……？はあまりの痛みでそのまま気絶するように意識を失った…
side out

side 【彼】

？【気を失ったか…まあ仕方がないか…知識と能力は得たんだ…最低限の傷みは必要だ…君は運がいい】

彼は気を失った？を見ながら言う

？【感謝しろよ？その程度の傷みで君は神を越える力を得たんだ…
奇特な魂に感謝しそして何の憂いもなく転生するがいい】

side ？

？はおぼろな意識で彼の声を聞いた…気がした

そしてさらにまた気を失った…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4218/>

魔法少女リリカルなのは～虚無の一般人MODOKI

2010年10月10日06時23分発行